

授業評価 2010 によせて

2001 年度より全学科で開始された授業評価も 2010 年度で 10 回目を迎えました。Web 公開も今回で 5 回目になります。「授業評価」は毎年度末に千葉大学工学部の専門科目の講義に関して、講義の中で学生に対して行った授業評価アンケートの結果をもとに、自分の講義のよい点を確認し、問題点を改善するためのものです。個々の講義では、9 年間のアンケート結果をフィードバックして授業の改善が行われているものと思います。

昨年度まではすべての講義・実験・演習に対して、学生による授業評価アンケートの実施を義務付けられてきました。アンケートによる評価がマンネリ化し、アンケートの回答において、「すべて左列または右列にマークした」、「幾何学模様を作りだすようにマークした」回答なども見受けられました。明らかに意識調査として問題のある回答は集計していませんので、アンケートに協力する学生は真摯に答えてほしいものです。今年度は、学生・教員の負担を減らす目的で、教員は自分の担当講義の授業評価アンケートを年間通して 1 回以上行えばよいことにして、アンケートの実施回数を減らしました。

最近、講義の仕方以上に学部教育について考えていることがあります。「大学での学びとは何か?」「学生はもっと自由に好きなことを学習してよいのではないか?」大多数の学生はできれば楽をしたいと考えているように見受けられます。その意識は、卒業時の取得単位数に現われているように思います。学生には入学時の契約書として卒業のための要件単位数が提示されているわけですが、これは最低の要件であって、これ以上取得してはいけないと言っているわけではありません。学生は何を目標にしているのか考えてみる必要があると思います。工学部の学生には、卒業要件の最低単位数を気にしないで、自由に学習して、知識を吸収してほしいと期待しています。一方で、教員は学生に何を求め、何を与えてきたか、今一度考えてみる必要があると思います。

授業評価アンケートとは関連のないことを書いてしまいましたが、教育の本質は、如何に学生をその気にさせて、講義に立ち向かわせるかではないかと考えています。JABEE 制度を取り入れている建築学科の卒業生の取得単位数が他の 9 学科よりも多いことは明らかです。カリキュラム改善の実例が身近に存在しているので、各学科は学び取る価値があると思います。工学部の関係者がボトムアップの思想を持って、各学科の教育を改善していくことを期待したいと思います。

最後に、授業評価アンケートに答えてくれた学生諸君、「授業評価 2010」の作成に関わった教職員のすべて皆様に感謝申し上げます。

2011 年 3 月

工学部副学部長（教育担当）

佐藤智司

継続的な授業改善に向けて

千葉大学工学部で「授業評価XXXX」がとりまとめられるようになってから10年が経ち、今回で10回目となりました。またWeb掲載となってから5年目となります。当初は教員からしてみればアンケート結果に一喜一憂することもありましたが、最近は成熟した運用が行われています。この間、単に授業担当教員が自分の担当に利用するだけでなく、学科改組にともなうカリキュラムの改変や、講義室の設備・環境改善にも活用されてきました。一方で、すべての教員のすべての授業がアンケート対象になっており、特に学生の皆さんにしてみれば、成果が授業の改善として戻ってはくるものの、非常に大きな負担を強いられてきたことも事実です。時にはすべての項目が3番や5番にマークされたアンケート用紙を見かけることもありました。

そこで、負担を軽減しながら、より安定し成熟した運用を図るため、今年度からアンケート実施方法について次の変更を図りました。

1. 各教員は担当科目から最低1科目について授業アンケートする。
2. ティーチングアシスタント(TA)を採用している授業はアンケートする(TAの活用状況を把握するため)。
3. 新規担当科目(新任の教員の担当授業を含む)は必ずアンケートする。

新しい実施方式のもとでも有効に活用されて、当初の目的を達成できるものと確信しております。

最後に、アンケートに協力頂いた学生諸君、執筆頂いた教員各位、報告書の形に取りまとめて頂いた教育委員ならびに学務グループの皆さんに感謝するとともに、アンケート結果が活用されて授業改善につながることを切に願います。

2011年3月
工学部教育委員会
委員長 唐津 孝